

令和 2 年 6 月 16 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05092

研究課題名(和文)高齢者ケア施設の入居者家族へのケアとその効果に関する縦断的研究

研究課題名(英文) A Longitudinal study on care and its effect for family caregivers of older residents in long-term care facilities

研究代表者

深堀 浩樹 (FUKAHORI, Hiroki)

慶應義塾大学・看護医療学部(藤沢)・教授

研究者番号：30381916

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,400,000円

研究成果の概要(和文)：高齢者施設の入居者の家族への支援方法の発展に貢献する成果として、次の3点を達成した。(1)介護老人福祉施設および介護付き有料老人ホームのスタッフがやっている家族支援をフォーカスグループインタビューにより明らかにした、(2)介護老人福祉施設の入居者の家族の支援ニーズを明らかにする上での十分なデータをインタビュー調査より得た、(3)入居者の家族介護者のメンタルヘルス、Quality of Life、介護負担感を明らかにするための縦断的研究をおこなうための体制を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

超高齢社会といわれる日本において、高齢者の生活の場の選択肢の一つとして介護老人福祉施設や介護付き有料老人ホームのような高齢者施設の重要性は増す一方である。高齢者施設の入居者の家族介護者に関する先行研究では、家族介護者は入居者へのケアを継続して行い、支援のニーズを持つことが示唆されてきた。本研究は、先行研究の動向を踏まえ日本における高齢者施設の入居者の家族介護者への支援の検討に活用できる基礎的な知見を提供した点で学術的意義と社会的意義の双方を有する。

研究成果の概要(英文)：We have achieved following three points as results to contribute development of the method of supporting family members of the residents in long-term care facilities. (1) We clarified the support for family members provided by the staff working in intensive care homes for older people and fee-based homes for the elders through focus-group interviews. (2) We obtained sufficient data to clarify the needs of the family members of the residents of the intensive care homes for older people through interview surveys. (3) A research system was established to conduct a longitudinal study to clarify the mental health, quality of life, and caregiving burden of family caregivers of the residents.

研究分野：老年看護学

キーワード：高齢者ケア施設 家族支援 質的研究 調査研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始した当初、先行研究を概観し北米や北欧諸国、豪州などでは、高齢者施設の入居者の家族についての研究はかなり蓄積されていると認識していた。先行研究の概観からは、高齢者施設の入居者の家族の面会について、家族は入居者が施設に入居した後は入居者へのケアを行わなくなるといふ俗説に反し、多くの家族が面会を通じたケアの提供を入居後も継続して行うということが多くの研究で指摘されていた。また、北米や北欧諸国、豪州などでは、家族や入居者を対象とした面接や参与観察による質的研究が多数存在しており、高齢者施設の家族の役割や負担感などを多面的に理解するための知見が蓄積されている状況であると思われた。また、高齢者施設の家族への介入研究もいくつか実施されており、入居者の問題行動やうつ症状の減少、家族と入居者間のコミュニケーションの改善効果などが示唆されている状況であった。さらに、高齢者施設の入居者の家族のみを対象とした研究に加え、入居者家族とスタッフの協働・連携・相互作用に着目し、入居者の家族が協働・連携することが質の高いケアの提供につながることを示唆する文献も多数見られていた。

一方、わが国を含むアジア各国の研究動向に目を向けたとき、高齢者施設の入居者の家族への支援や家族とスタッフの協働に関する研究はそれほど多くはなく、研究の余地があると考えていた。そうした状況の中で我々は高齢者施設の入居者家族のケアに関連した研究をある程度蓄積していると自己評価していた。例えば、日本の介護老人福祉施設の入居者の家族のうち 6~9 割が少なくとも月に一回は入居者と面会していること(Fukahori et al., 2007)、介護老人福祉施設の入居者の家族の 4 割が精神的健康を害していたこと(深堀ら, 2005)、入居者家族が入居者に面会する中で「身体的負担」や「絶え間ない気遣い」等の否定的な認識を感じることを(深堀ら, 2008)などを明らかにし、それらの研究から入居者家族を対象とした研究に活用できる評価尺度として施設家族介護負担感尺度を開発した(Fukahori et al., 2010)。その他の研究者による研究としては、介護老人保健施設において 20 名の入居者の家族介護者を対象とした面接調査による縦断調査(2 か月後)が行われているが対象者はそれほど多くなく、追跡期間も短いという限界があると考えられた(横内ら, 2012)。

他のアジア地域に目を向けると台湾の研究者が、高齢者施設における家族支援に関する研究を活発に行っており、入居者への面会が家族にとって持つ意味を明らかにするなどしている(Tsai et al., 2012)。しかし、それ以外の研究者で高齢者施設の家族支援に関する研究を活発に行っているものは我々が知る限り当時はアジア圏では見られなかった。従って、先に述べたように、全体として日本を含むアジア各国では高齢者施設の家族を対象とした研究は少なく、高齢者施設の家族支援を検討するうえで基礎的な役割を果たす学術的研究が不足している状況にあると考えた。

以上より、研究開始当初の背景の認識から、それまでに高齢者施設の入居者家族へのケアに関してある程度研究を蓄積してきた我々が、高齢者施設で勤務する多職種(看護職・介護職・セラピスト・生活相談員・施設長等)が協働して入居者の家族への支援を行っていくための基礎的な知見を蓄積するために、スタッフが現状で行っている家族支援、入居者の家族が感じている支援ニーズ、入居後の家族介護者の心身の状態(メンタルヘルスや Quality of Life、介護負担感)の推移などについての学術的な検討を進めることが有益であると考えていた。

2. 研究の目的

以上の背景より、本研究の目的を以下の 3 点とした。

- (1) 介護老人福祉施設・介護付き有料老人ホームの多職種を対象とした質的調査により、日本の高齢者施設のスタッフが入居者の家族に行っている家族支援を明らかにすること。
- (2) 介護老人福祉施設の入居者の家族を対象にした質的調査により、介護老人福祉施設の入居者の家族の支援ニーズを明らかにすること。
- (3) 介護老人福祉施設の入居者の家族を対象とした縦断的な量的調査により、家族介護者のメンタルヘルス、Quality of Life (QOL)、介護負担感について明らかにすること。

3. 研究の方法

前述の 3 つの目的ごとに研究の方法を説明する。

(1) 入居者の家族に対するスタッフによる家族支援

東京都と神奈川県にある介護老人福祉施設および介護付き有料老人ホームのスタッフ(介護職・看護職・その他の職種)を対象としてフォーカスグループインタビューを実施した。フォーカスグループインタビューは事前に作成したインタビューガイドに沿って研究者がファシリテーターを務めて半構造的に行われた。ファシリテーターはインタビューガイドを用いて、スタッフが日常的に行っている家族支援について活発に語られるように工夫した。分析は内容分析の手法で行うこととした。

(2) 入居者の家族の支援ニーズ

東京都の介護老人福祉施設の入居者の家族を対象として、インタビューを実施した。インタビューは事前に作成したインタビューガイドに沿って行われ、家族が受けたと思う支援や家族の支援ニーズについて自由に語ってもらった(半構造化インタビュー)。分析は内容分析の手法で行うこととした。

(3) 入居者の家族介護者のメンタルヘルス、QOL,介護負担感

国内外の文献検討と研究者らの協議により調査に用いるための調査票を開発し、介護老人福祉施設の家族会の会員によるプレテストに基づいて修正した。その後、東京都内の介護老人福祉施設の協力を得て、調査開始後の期間に介護老人福祉施設に入居する入居者の家族に入居時に調査セットを配布し、調査協力の得られる方から初回調査票を返信してもらうこととした。その6か月後に第2回の調査票を配布することとした。

4. 研究成果

(1) 入居者の家族に対するスタッフによる家族支援

介護老人福祉施設のスタッフ 50 名、介護付き有料老人ホームのスタッフ 14 名を対象としてフォーカスグループインタビューを行い、スタッフがやっている家族支援についてのデータが得られた。分析の結果、各職種が行うコミュニケーションや関係構築などの家族支援と家族支援を促進・阻害する要因が明らかとなった。また、介護老人福祉施設と介護付き有料老人ホームでは家族支援や促進・阻害要因について共通すると考えられる結果が多くみられた一方で、介護付き有料老人ホームにおける契約の複雑さなど、一部異なる結果も示唆された。今後、分析を精緻化した後、実践に活用できる成果を学術論文として公表していくための十分なデータが得られた。成果の一部は、研究が行われた市区町村における介護従事者向けのイベントにおいて発表し(図1)学術論文として公表した(井上, 2018)。

(2) 入居者の家族の支援ニーズ

介護老人福祉施設の入居者の家族 23 名を対象としてインタビューを行い、入居者の家族がスタッフから受けた家族支援や家族が感じている支援ニーズについてのデータが得られた。分析の結果、共感や理解へのニーズや、役割の再調整へのニーズなどの、高齢者施設の入居者の家族に特徴的であると思われるニーズが明らかとなっている。今後、分析を精緻化した後、実践に活用できる成果を学術論文として公表していくための十分なデータが得られた。

(3) 入居者の家族介護者のメンタルヘルス、QOL,介護負担感

家族介護者のメンタルヘルス、QOL,介護負担感を包括的に把握するための調査票を完成させた(図2)。東京都内の介護老人福祉施設7施設を対象に調査協力が得られ、データが得られ始めている。使用する尺度の使用許諾取得に想定外のことが生じ研究期間が延長されたこと、新型コロナウイルス感染症の影響により研究活動が一時中断したことから予定していた対象者数に至っていないためデータ収集を継続していくが、そのための研究体制が構築された。

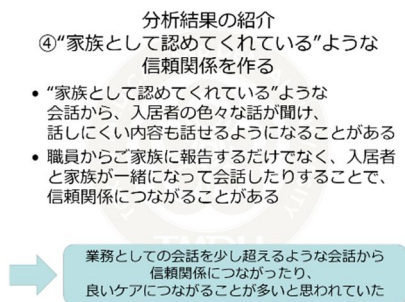


図1. 介護従事者向けの発表内容の一部

特別養護老人ホームの入居者家族の Quality of Life, メンタルヘルス, 介護負担感に関する研究 第1回 アンケート

このアンケートは、ご入居者が特別養護老人ホームに入居する前に基づいてご回答ください。本アンケートにおける「介護」とは、「日常生活に何らかの支助けが必要になった方に対して、あなたが行っていた支援や世話すべて」を指しています。身の回りの平仮いや心のサポート、食事、経済的な支援などを含んでいます。

【記入方法】

1, 4 段階もしくは 5 段階の選択式の場合
もっともあなたの気持ちに近い数字を一つだけ選んで○をつけてください。回答に迷われた場合も「間違い」欄に○をつけてください。

(良い例)	思わない	たまたま思っている	時々思う	よく思う	いつも思う
あなたは、施設入居中でも入居者のことが心配だと思いますか。	0	1	2	3	4

(悪い例 その1)	思わない	たまたま思っている	時々思う	よく思う	いつも思う
あなたは、施設入居中でも入居者のことが心配だと思いますか。	0	1	2	3	4

数字と数字の間だと思われても、お気持ちに近い数字を一つを○をつけてください。

図2. 調査票の一部(著作権等が関係しない箇所を抜粋)

引用文献

1. 深堀浩樹, 須貝佑一, 水野陽子, 松井典子, 杉下知子. 特別養護老人ホーム入所者の家族介護者における精神的健康とその関連要因. 日本公衆衛生雑誌. 2005;52(5):399-410.
2. Fukahori H, Matsui N, Mizuno Y, Yamamoto-Mitani N, Sugai Y, Sugishita C. Factors related to family visits to nursing home residents in Japan. Archives of gerontology and geriatrics. 2007;45(1):73-86.
3. Fukahori H, YAMAMOTO MITANI N, Sugiyama T, Sugai Y, Kai I. Psychometric properties of the Caregiving Burden Scale for family caregivers with relatives in nursing homes: Scale development. Japan Journal of Nursing Science. 2010;7(2):136-47.
4. 井上修一, 岩崎弓子, 酒井郁子, 杉山智子, 奥村朱美, 大河原啓文, 深堀浩樹. 介護付有料老人ホームにおける家族支援の特徴. 人間関係学研究: 大妻女子大学人間関係学部紀要. 2018(20):89-99.

5. Tsai HH, Tsai YF. Family members' perceived meaning of visiting nursing home residents in Taiwan. *Journal of advanced nursing*. 2012;68(2):302-11.
6. 横内理乃, 新田静江. 介護老人保健施設入所時と 2 か月後における家族介護者の生活状況と精神的健康度. *老年看護学*. 2012;16(2):80-5.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 井上修一, 岩崎弓子, 酒井郁子, 杉山智子, 奥村朱美, 大河原啓文, 深堀浩樹	4. 巻 20
2. 論文標題 介護付き有料老人ホームにおける家族支援の特徴	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大妻女子大学人間関係学部紀要 人間関係学研究	6. 最初と最後の頁 89-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井上 修一 (Shuichi INOUE) (20322430)	大妻女子大学・人間関係学部・准教授 (32604)	
研究分担者	廣山 奈津子 (Natsuko HIROYAMA) (00733081)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・助教 (12602)	
研究協力者	杉山 智子 (SUGIYAMA Tomoko) (90459032)	順天堂大学・医療看護学部・准教授 (32620)	
研究協力者	岩崎 弓子 (IWASAKI Yumiko)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・大学院生 (12602)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	奥村 朱美 (OKUMURA Akemi)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・大学院生 (12602)	
研究協力者	大河原 啓文 (OGAWARA Hirofumi)	慶應義塾大学・大学院健康マネジメント研究科・大学院生 (32612)	
連携研究者	酒井 郁子 (SAKAI Ikuko) (10197767)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授 (12501)	